

福島原発事故被害地域における甲状腺検査の現状と今後の課題

講師 福成 信博 准教授

昭和大学横浜市北部病院 一般外科

不幸にして引き起こされた福島原発事故による健康被害に対し、多くの懸念が持たれている。

我が国は唯一の原子爆弾による被爆国であり、チェルノブイリ原発事故時にも率先して、甲状腺検査、治療に対して支援を行ってきた国である。放射性ヨウ素の内部被爆による小児甲状腺癌が増加するか否か、国内のみならず、海外においても日本の対応が着目されている。現在、福島で施行されている県民健康管理調査としての甲状腺検査は、平成23年3月11日時点で0歳から18歳までの福島県民（約39万人）が対象であり、放射線の影響が出にくい時期に行う現状確認のための先行検査である。平成26年4月からは、本格検査として、20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごとに継続して、甲状腺（超音波）検査を行い、長期的に見守る計画である。

この甲状腺検査に昨年10月当初より現地での参加および福島県外での検診等に対する協力を行っており、その現状と今後の課題について述べる。

日程： 12月16日（日）午後2時～4時

会場： 東京教育専門学校 地下 教育ホール

<http://www.wadaminoru.ac.jp/tokyo/access/index.html>



会費：1,000円

申込：(社)日本医学協会事務局 医療問題懇談会 係り TEL 042-497-4333

FAX 042-497-4334 E-mail i-kyokai@mbc.sperer.ne.jp

HPより申込み可 <http://www.igaku-kyokai.org/>

主催：(社)日本医学協会

問合せ： 社団法人日本医学協会 事務局

〒204-0022 東京都清瀬市松山2-1-7-202

TEL 042-497-4333

FAX 042-497-4334